

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102088
法人名	医療法人椿クリニック
事業所名	グループホームつばきの家
所在地	松山市古川北4-1-16
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人の運営するホームであり、健康管理や医療支援の面で安心感がある。また同法人は他にもグループホームや高齢者福祉事業所を運営しており、ホームはこれらの事業所と共に行事や講演会を行う等の連携を図りながら地域の福祉を支えている。職員は、利用者の思いやペースを大切にしながら自立に向けた支援を行っている。ホームは、地域の祭り・バザー・盆踊り・運動会等に参加したり、高校生のボランティアを受け入れたり、近くの保育園児の訪問を受けたり、近所の方が花や写真を届けてくれたり、地域と合同で防災訓練を行う等の交流がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームつばきの家

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)
氏名 島村結貴

評価完了日 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念をリビング・廊下等、見やすいところに掲示し、ミーティング等の時にも理念の共有と、行動指針を確認し、日々のケアに活かしている。</p> <p>(外部評価) 理念を具体化した行動指針をつくり、この指針には地域との関係性を大切にすることが表現されている。管理者と職員は、理念と行動指針を玄関や廊下に掲げ、申送りで確認して共有し合っている。職員は、行動指針を個別性を踏まえたケアの目標として実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事に参加し交流が深まるよう取り組んでいる。また、認知症に関する地域勉強会なども行っている。</p> <p>(外部評価) 地域の祭り、バザー、盆踊り、運動会等に参加したり、高校生のボランティアを受け入れたり、近くの保育園児の訪問を受けたり、近所の方がホームに花や写真を届けてくれる等の交流がある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域住民、家族に対して認知症についてや医療・介護サービスに関する情報を発信し勉強会を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、様々な意見、要望を頂きサービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) ホームの状況や行事、利用者の状態等を報告して参加者から質問や意見をいただき、会議での意見、提案、情報等をサービス向上に活かしている。会議のメンバーがホーム内を視察したり、ホームの運動会やクリスマス会に参加してもらうことで会議に代える等の柔軟な運営に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 時々、訪問頂き現状や工夫、疑問、相談を話している。	
			(外部評価) 利用者の支援内容、職員の確保や育成等について市の担当者に相談したり、市主催の研修会で話し合う等、日頃から協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。身体拘束マニュアルに基づき理解をしっかりと行い、職員の意識向上に努めている。	
			(外部評価) 代表者及び職員は身体拘束の弊害を認識し、拘束しないケアの実践に取り組んでいる。玄関は自由に入出りできるように、昼間は施錠していない。テーブルと利用者の車いす等が密接して動きを制限しないよう注意し、ベッドからの転落防止では掛け布団につけた鈴の音で対応する等の工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法について常に学習している。制度の理解、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度について常に学習している。ホーム内に資料等を掲示し、利用者・家族等には必要時、制度の活用推進を提供している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 丁寧に十分な説明を行い納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見・不満・苦情を受け入れる体制を整えている。苦情等あれば速やかに運営推進会議等で報告している。	
			(外部評価) 利用者の意見は日常の会話や家族からの情報等で把握し、家族の要望は来訪時の会話や個人別の家族ノート、家族会、運営推進会議等で把握し、運営に反映させている。苦情相談窓口は関係書類に明記して説明している。	苦情相談窓口をホーム内と外部に分けて関係書類に記載しているが、ホーム内の表記と同じように外部の窓口についても担当部署名や電話番号等まで具体的に記載することが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 法人内やホーム内でのミーティングにおいて意見、提案を聞く機会を設けている。 (外部評価) 月1回のミーティングで職員の意見や提案を聞き、それらについて話し合いを行って業務改善や運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の評価をされ各個人が日々向上心を持って業務に取り組めるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 向上心を得られるようミーティングでの意見交換、研修会への参加を通じ専門性の更なる向上を図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会などの機会をできる限り設け職員の更なる質の向上を図る取組みをしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に話を聞かせていただき利用者の状況把握に努めている。必要な情報を全職員で共有し把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前にこれまでの経緯等話し合いをしっかりと行い、要望等訴えを確認している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分に話し合いをし検討、迅速に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の大先輩として尊厳を大切にしている。本人とのかかわりの中で喜怒哀楽を知ることにも努め共に過ごしている意識と関係作りを実践している。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との交流の場を設けたり、日々の様子や状態等を報告、情報の共有に努め一緒にサポートしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣の把握に努め、本人が思い出せなかったり、思い出しても名前、場所等がわからないなどもあるができるだけかけられるようにしたりして働きかけている。 (外部評価) 家族、友人、元同僚、知人等の来訪時には、話しやすい雰囲気となるよう支援しており、来訪の方々から利用者についての情報を得ている。職員は、利用者の希望によりかつて自宅があった場所に一緒に出かけることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係にトラブルが生じないよう職員が間に入って回避に努めている。誕生会等には1・2階合同で誕生会を行い、皆でケーキを作り、お祝いをし皆で支えあう関係を築いている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談、支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で希望、意向などの把握に努めている。また家族から情報を得たり本人がその人らしく過ごしていただけるよう検討し実践している。	
			(外部評価) 一人ひとりの思いや希望は日頃の関わり、特に、会話や表情及び家族からの情報等で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活習慣等把握はケアをする上で必然で重要視し実践につなげている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日頃から変化や発見を感じ取り全体像の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族から意見、提案を聞き反映できるようにしている。また、家族への協力もお願いしている。	
			(外部評価) 利用者の担当職員を中心に、利用者や家族の思いを反映しながら全職員で話し合っって介護計画を作成している。計画は毎月のミーティングで話題に挙げ、必要時には見直しているが、変化がなくても3か月に1回はモニタリングしている。ただ、介護計画と日々の支援が十分につながっているとまでは言えない。	介護計画にそって支援が行われるよう、最新の介護計画のコピーを利用者の個人記録に綴じて、常に確認しながら支援につなげていけるような工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の関わりで気づきや変化等見逃さないよう個別に記録し職員間の情報の共有につなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) できる範囲の中で柔軟に対応できるよう提供、支援を実践している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議等で情報交換、協力関係が築けるようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体が医療機関のため、医療と介護の連携が密にとれ ている。また家族の希望に応じて他の医療機関の受診 も行っている。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。基本的に、受診には家族が付き添うことにし ているが、状況により職員が付き添うこともある。月 に1～2回は、運営法人の医療機関の医師による往診 もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の様子を伝えるとともに相談し連携を図りより良 い支援ができるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 常に入院時、情報交換、相談をこまめにし関係作りを 実践している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 事業所としてできることできないことを十分に説明話 し合いをし方針を共有、支援に取り組んでいる。	
			(外部評価) 重度化や終末期の対応は可能としており、早い時期か ら利用者や家族とも話し合っている。看取りのマニユ アルを作成し、運営法人や他の協力医療機関の協力を 得ながら対応しているが、看取りにあたっての職員の 勤務体制や家族との関わり等、細かい取り決めが十分 とまでは言えない。	重度化や終末期の対応については、職員の支援の限界 を見極め、夜間の勤務体制やユニット間の連携、家族 の協力、家族が居室に宿泊する場合のこと等について 全職員で話し合い、細かく取り決めていくことを期待 する。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に学ぶ機会を持ち、実践に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進介護等で地域に協力体制を働きがけている。また定期的に防災訓練を行い全職員対応できるようにしている。 (外部評価) 年2回の防災訓練を、夜間を想定した訓練も含め、消防署の協力を得て行っている。ホームからの働きかけにより、近所の方にも訓練に参加してもらえるようになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の尊厳を大切に、個人の性格や生活歴を把握し声掛けの方法等そのときの様子等に応じ臨機応変に対応、配慮して行っている。 (外部評価) 一人ひとりを尊重した言葉かけや態度で接している。食事の食べこぼしをさりげなく片付けたり、ゆっくり食事する利用者をせかすことなく見守る等、利用者の誇りを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いや希望を表したり、自分で決めたりを簡潔にできるようサポートしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の体調に応じ個別に対応できるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の意向で決めており本人の希望に対応できるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者から食べたいものや季節物を教えていただいたりしてメニューにとりこみ食事作りに感心がもてるようにしている。また、同じテーブルで一緒に食事したり、食前の盛り付けや配膳、食後の後片付け等も一緒に行っている。 (外部評価) 利用者は、職員と一緒に食事の盛り付け、配膳、片付け等を行っている。職員は時間がかかっても自力で食事する利用者を見守り、状態に合わせて刻み食にする等の支援をしている。食事の献立は職員が立て、法人の栄養士がチェックしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) その日の状態や味の嗜好等、把握し個人に合わせた対応をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でできる方はしていただき、できない方は介助を行い一人ひとりに応じた対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンの把握、見直しを行い失禁等の減少につながっている。失禁時の声掛けに注意し自尊心を傷つけないよう配慮している。	
			(外部評価) 排泄チェック表に基づいてトイレ誘導を行い、自立に向けた支援をしている。紙パンツやパットを使用することはあるが、おむつは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄パターンの把握をし水分や食材の工夫、体を動かすことにより便秘の改善に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望や不穏時等タイミングに応じて個別にあった対応をしている。	
			(外部評価) 基本的には2日に1回の入浴となっているが、毎日入浴したい、夜間に入浴したい等の希望には、その希望に応じた支援に努めている。利用者の状態によりシャワーチェアでの対応も可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動、生活リズムを整えゆっくり安眠できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬状況、内容を全職員が把握、理解し状態変化の観察に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人の得意なことなどの把握に努め、それを発揮できる場面作りを行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族等にも協力してもらい希望にそった対応ができるよう努めている。	
			(外部評価) 近くの神社へ散歩に出かけたり、近所のスーパーで買い物を楽しんだり、行事で遠出をする等の外出支援をしている。また、ホームの畑で草取りや野菜の収穫をしたり、庭でバーベキューを行ったり、ベランダで日光浴をする等、日常的に戸外で過ごせるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時等ではできるだけ自分で払えるようサポートしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて日常的に手紙を書いたり、電話をしたりできるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 写真、作品を飾ったりして楽しんでいただいている。 不快のない程度の生活感に配慮している。	
			(外部評価) 玄関に近所の方が届けてくれた写真を飾り、居間には見やすい時計やテレビ、手づくりの日めくり、観葉植物等があり、壁に行事の写真や手づくり品を飾り、温かい雰囲気で心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気に入った場所ですごしていただけるよう配慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いやすいものやなじみのものを持ってきてもらったり、配置等一緒に考えその人らしく生活できるよう努めている。	
			(外部評価) 居室は利用者の使い慣れたベッド、たんす、衣装ケース、シルバーカー、仏壇、お気に入りのマスコット等を持ち込み、居心地よく過ごせる部屋となっている。各居室内には洗面台が設置されており、利便性も高い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 物の配置や環境整備に配慮し不安や混乱がないよう努めている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102088
法人名	医療法人椿クリニック
事業所名	グループホームつばきの家
所在地	松山市古川北4-1-16
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人の運営するホームであり、健康管理や医療支援の面で安心感がある。また同法人は他にもグループホームや高齢者福祉事業所を運営しており、ホームはこれらの事業所と共に行事や講演会を行う等の連携を図りながら地域の福祉を支えている。職員は、利用者の思いやペースを大切にしながら自立に向けた支援を行っている。ホームは、地域の祭り・バザー・盆踊り・運動会等に参加したり、高校生のボランティアを受け入れたり、近くの保育園児の訪問を受けたり、近所の方が花や写真を届けてくれたり、地域と合同で防災訓練を行う等の交流がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームつばきの家

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 島村結貴

評価完了日 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念をリビング・廊下等、見やすいところに掲示し、ミーティング等の時にも理念の共有と、行動指針を確認し、日々のケアに活かしている。</p> <p>(外部評価) 理念を具体化した行動指針をつくり、この指針には地域との関係性を大切にすることが表現されている。管理者と職員は、理念と行動指針を玄関や廊下に掲げ、申送り確認して共有し合っている。職員は、行動指針を個別性を踏まえたケアの目標として実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事にできるだけ参加し事業所の行事等は地域に積極的に声かけ参加を呼びかけている。地域との交流も深めてきつつある。</p> <p>(外部評価) 地域の祭り、バザー、盆踊り、運動会等に参加したり、高校生のボランティアを受け入れたり、近くの保育園児の訪問を受けたり、近所の方がホームに花や写真を届けてくれる等の交流がある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的に地域の方に向け認知症についてご理解いただけるよう勉強会を開催している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、様々な意見、要望を頂きサービスの向上に活かしている。	
			(外部評価) ホームの状況や行事、利用者の状態等を報告して参加者から質問や意見をいただき、会議での意見、提案、情報等をサービス向上に活かしている。会議のメンバーがホーム内を視察したり、ホームの運動会やクリスマス会に参加してもらうことで会議に代える等の柔軟な運営に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう 取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者と連絡をとり取組みを伝え関係作りに努めている。	
			(外部評価) 利用者の支援内容、職員の確保や育成等について市の担当者に相談したり、市主催の研修会で話し合う等、日頃から協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行っていない。身体拘束マニュアルに基づき理解をしっかりと行い、職員の意識向上に努めている。	
			(外部評価) 代表者及び職員は身体拘束の弊害を認識し、拘束しないケアの実践に取り組んでいる。玄関は自由に出入りできるように、昼間は施錠していない。テーブルと利用者の車いす等が密接して動きを制限しないよう注意し、ベッドからの転落防止では掛け布団につけた鈴の音で対応する等の工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法について常に学習している。制度の理解、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度について常に学習している。ホーム内に資料等を掲示し、利用者・家族等には必要時、制度の活用推進を提供している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 丁寧に十分な説明を行い納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見・不満・苦情を受け入れる体制を整えている。苦情等あれば速やかに運営推進会議等で報告している。 (外部評価) 利用者の意見は日常の会話や家族からの情報等で把握し、家族の要望は来訪時の会話や個人別の家族ノート、家族会、運営推進会議等で把握し、運営に反映させている。苦情相談窓口は関係書類に明記して説明している。	苦情相談窓口をホーム内と外部に分けて関係書類に記載しているが、ホーム内の表記と同じように外部の窓口についても担当部署名や電話番号等まで具体的に記載することが望ましい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 法人内やホーム内でのミーティングにおいて意見、提案を聞く機会を設けている。 (外部評価) 月1回のミーティングで職員の意見や提案を聞き、それらについて話し合いを行って業務改善や運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の評価をされ各個人が日々向上心を持って業務に取り組めるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個々によって力量等を把握されて研修等の確保をしていただくなど質の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会などの機会をできる限り設け職員の更なる質の向上を図る取組みをしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に話を聞かせていただき利用者の状況把握に努めている。必要な情報を全職員で共有し把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前にこれまでの経緯等話し合いをしっかりと行い、良い関係が作れるよう要望等訴えを確認している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 十分に話し合いをし検討、迅速・柔軟に対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の大先輩として尊厳を大切にしている。本人とのかかわりの中で喜怒哀楽を知ることにも努め共に過ごしている意識と関係作りを実践している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との交流の場を設けたり、日々の様子や状態等を報告、情報の共有に努め一緒にサポートしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣の把握に努め、本人が思い出せなかったり、思い出しても名前、場所等がわからないなどもあるができるだけかけられるようにしたりして働きかけている。 (外部評価) 家族、友人、元同僚、知人等の来訪時には、話しやすい雰囲気となるよう支援しており、来訪の方々から利用者についての情報を得ている。職員は、利用者の希望によりかつて自宅があった場所に一緒に出かけることもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士、様々な問題があるも利用者同士で支えている場面もあり全体で支えあうよう支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談、支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中で希望、意向などの把握に努めている。また家族から情報を得たり本人がその人らしく過ごしていただけるよう検討し実践している。	
			(外部評価) 一人ひとりの思いや希望は日頃の関わり、特に、会話や表情及び家族からの情報等で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでの生活習慣等把握はケアをする上で必然で重視し実践につなげている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日頃から変化や発見を感じ取り全体像の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族から意見、提案を聞き反映できるようにしている。また、家族への協力もお願いしている。	
			(外部評価) 利用者の担当職員を中心に、利用者や家族の思いを反映しながら全職員で話し合っって介護計画を作成している。計画は毎月のミーティングで話題に挙げ、必要時には見直しているが、変化がなくても3か月に1回はモニタリングしている。ただ、介護計画と日々の支援が十分につながっているとまでは言えない。	介護計画にそって支援が行われるよう、最新の介護計画のコピーを利用者の個人記録に綴じて、常に確認しながら支援につなげていけるような工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の変化、気づきに注意して関わり個別に記録をとっている。情報を共有し実践に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 地域資源を活用できるものはさせていただき本人が困ることのないよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議等で情報交換、協力関係が築けるようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 母体が医療機関のため、医療と介護の連携が密にとれ ている。また家族の希望に応じて他の医療機関の受診 も行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。基本的に、受診には家族が付き添うことにし ているが、状況により職員が付き添うこともある。月 に1～2回は、運営法人の医療機関の医師による往診 もある。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) その都度、報告相談しよりよい支援ができるようにし ている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 常に入院時、情報交換、相談をこまめにし関係作りを 実践している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 事業所としてできることできないことを十分に説明話 し合いをし方針を共有、支援に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 重度化や終末期の対応は可能としており、早い時期か ら利用者や家族とも話し合っている。看取りのマニユ アルを作成し、運営法人や他の協力医療機関の協力を 得ながら対応しているが、看取りにあたっての職員の 勤務体制や家族との関わり等、細かい取り決めが十分 とまでは言えない。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、職員の支援の限界 を見極め、夜間の勤務体制やユニット間の連携、家族 の協力、家族が居室に宿泊する場合のこと等について 全職員で話し合い、細かく取り決めていくことを期待 する。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 最低限身につけておかなければならないことを定期的訓練を行い、向上に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に防災訓練を実施し常に何が起こっても対応できるようにしている。地域との協力体制も築きつつある。 (外部評価) 年2回の防災訓練を、夜間を想定した訓練も含め、消防署の協力を得て行っている。ホームからの働きかけにより、近所の方にも訓練に参加してもらえるようになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の状態に応じ臨機応変に対応している。 (外部評価) 一人ひとりを尊重した言葉かけや態度で接している。食事の食べこぼしをさりげなく片付けたり、ゆっくり食事する利用者をせかすことなく見守る等、利用者の誇りを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 思いや希望を表したり、自分で決めたりできるようにサポートしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の体調に応じ個別に対応できるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の意向を尊重し対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者から食べたいものや季節物を教えていただいたりしてメニューにとりこみ食事作りに感心もてるようにしている。また、同じテーブルで一緒に食事したり、食前の盛り付けや配膳、食後の後片付け等も一緒に行っている。	
			(外部評価) 利用者は、職員と一緒に食事の盛り付け、配膳、片付け等を行っている。職員は時間がかかっても自力で食事する利用者を見守り、状態に合わせて刻み食にする等の支援をしている。食事の献立は職員が立て、法人の栄養士がチェックしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量等の確保、把握をしてしっかり対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。一人でできる方、できない方が仕上げは職員により確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンの把握、見直しを行い失禁等の減少につながっている。失禁時の声掛けに注意し自尊心を傷つけないよう配慮している。	
			(外部評価) 排泄チェック表に基づいてトイレ誘導を行い、自立に向けた支援をしている。紙パンツやパットを使用することはあるが、おむつは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄パターンの把握をし水分や食材の工夫、体を動かすことにより便秘の改善に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望にあわせて入浴していただいているが業務都合のときもあったりするときがある。	
			(外部評価) 基本的には2日に1回の入浴となっているが、毎日入浴したい、夜間に入浴したい等の希望には、その希望に応じた支援に努めている。利用者の状態によりシャワーチェアでの対応も可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その方の生活習慣やリズムを把握し対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全職員が服薬状況、用法、副作用について理解している。。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々に役割をもっていただき張り合いと必要性を支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族等にも協力してもらい希望にそった対応ができるよう努めている。	
			(外部評価) 近くの神社へ散歩に出かけたり、近所のスーパーで買い物を楽しんだり、行事で遠出をする等の外出支援をしている。また、ホームの畑で草取りや野菜の収穫をしたり、庭でバーベキューを行ったり、ベランダで日光浴をする等、日常的に戸外で過ごせるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時等ではできるだけ自分で払えるようサポートしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 気がねなく手紙を書いたり、電話をしたりできるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 写真、作品を飾ったりして楽しんでいただいている。不快のない程度の生活感に配慮している。	
			(外部評価) 玄関に近所の方が届けてくれた写真を飾り、居間には見やすい時計やテレビ、手づくりの日めくり、観葉植物等があり、壁に行事の写真や手づくり品を飾り、温かい雰囲気ので心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング等にソファを置いたりして一人ひとりくつろげられるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人にとって使いやすいものやなじみのものを持ってきてもらい、これまでの生活が継続できるよう支援している。	
			(外部評価) 居室は利用者の使い慣れたベッド、たんす、衣装ケース、シルバーカー、仏壇、お気に入りのマスコット等を持ち込み、居心地よく過ごせる部屋となっている。各居室内には洗面台が設置されており、利便性も高い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 物の配置や環境整備に配慮し不安や混乱がないよう努めている。	